

1 複式学年別授業（算数）における学びを、

大集団の学級で活かすことができるか（2年）

2 実践内容

今年度の異動により、26年振りに中規模校（組のある学校）に赴任した。2年生33人。本当に驚くことばかりの日々。自分の長い間の少人数指導の実践方法が、33人の学級に通用せず、本当に苦しい1学期を過ごした。

【昨年度までの振り返り】

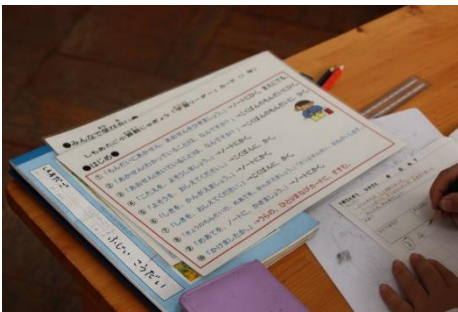
昨年度下阿多古小学校は、初めて複式学級が開設された。2年生（4人）、3年生（10人）計14人の大所帯の複式学級であった。

2年生4人は、能力的な差が大変大きい。3年生10人は、複式学年別授業としては集団が大きく、単元によって支援を必要とする子もいた。学習の型（進め方）は身に付いてきていたが、確実な理解や、子供たちによる学び合いでの深め合いには、至っていなかった。ICTも活用し、効率的かつ、子供たちで理解を深めていくことができる授業を、昨年度の研修内容として深めていった。

【今年度の課題】

- ・複式学年別授業で行ってきた授業の流れは、33人学級でも効率的に進めることができるのか。
（方法…問題カード、学び合いリーダーが進める、予想、めあての提示、一人学び、学び合い【ペア→全体】、発表、まとめ）
（手段…ノート、ホワイトボード、黒板、タブレット〈オクリンク、ムーブノート〉）
- ・支援方法（口頭、ヒントカード、付箋、過去ノート）

3 昨年度の授業の様子より



（学習リーダーカード）



（導入から、学習リーダーが進める）



（3年 一人学び オクリンク使用※）





(2、3年 画面共有での学び合い)

オクリンク、ムーブノートでの学び合い

(ノート記入⇒カメラ撮影⇒画面共有⇒テレビ画面に映して発表)

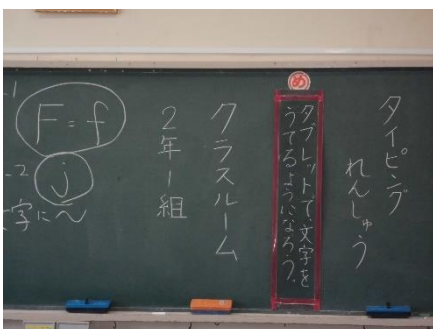
※課題あり (準備時間、見やすさ、集団の人数による利便性、板書に残らない)

○校内研修での提案…ジャムボードを使って、子供たちで考えをグループ化させるといい。テレビ画面にその時間の1番目標に迫ることができた子の考えを映しておき、それをまとめにつなげる。

(もう板書にこだわる時代ではない)

4 現状と課題

- ・ 1学期は、複式学年別授業での授業の流れを定着させた。(教師主導)
(複式学年別授業ではないので、教師が進めることがいいのか。)
- ・ 授業を流すことが精一杯の段階で、課題の検証がほとんどできていない。
- ・ 一人学びで考えを書ける子がほとんどいない。
- ・ 考え方を書く練習を、全体で何度も繰り返し行った。→少しずつ書ける子が出てきた。
- ・ 授業内容の定着すら、かなり難しい。
- ・ タブレットを使った学習にまで進めなかった。(昨年度算数ではほとんど使っていない。)
- ・ 2学期に向けて、タブレットの活用を意識的に行った
(ドリルパーク→タイピング練習→写真撮影→オクリンク)



- ・ 2学期がスタートの気持ちで、複式学年別授業(算数)における効率的、効果的、協働的な学びを生かしながら、タブレットを活用し、算数授業の実践を積み重ねていきたい。